

【和木町】

3 校務D X計画

1 「校務D Xチェックリスト自己点検結果」を踏まえた取組について

令和6年度に実施・公表された全国の公立小中学校及び公立小中学校の設置者を対象とした「GIGAスクール構想の下での校務D X化チェックリスト」に基づく自己点検において、町立学校の平均点は、計34項目1020点満点に対して293点であった。この結果を踏まえ、校務の効率化に向けて今後は特に以下の点について推進を図っていく。

(1) 汎用クラウドサービスの一層の活用

町立学校の教職員には校務用個人アカウントを付与しており、汎用型クラウドサービスを利用できる環境を整備している。これにより、各種研修や会議資料のペーパーレス化、効率化を進めている。

また、保護者からの欠席連絡や保護者への通知・調査等については、情報連絡ツールの利用によるデジタル化が進んでいるが、従来の方法での業務も併用または一部残っているため、一層のデジタル化による業務の効率化を推進していく。

(2) F A X・押印等、慣例業務の見直し

F A Xの使用についてはデジタル化の推進により、減ってきているものの、未だに一部の業務ではF A Xを使用している。また、押印を必要とする業務・書類については、指導要録の電子決裁化等の見直しが進んでいる。

ただし、これらの廃止や効率化について、ツールなどを導入する場合は導入費用や管理コストなど精査し、本当に効率化につながっているかを検討する必要がある。

(3) セキュリティ対策の強化

情報セキュリティポリシーは、情報セキュリティの最上位の基準であり、すべての教職員がその重要性を認識し、遵守するものである。

より一層の理解を深めるとともに、必要に応じて更新を行っていく。

児童生徒、教職員、保護者への情報モラル教育を行い、セキュリティ意識の向上を図る。

2 統合型校務支援システムの運用について

県全体で令和6年度からパブリッククラウド方式の統合型校務支援システムの運用を開始している。システムは、成績処理や出欠管理等を行う「教務系」、指導要録等の作成・管理を行う「学籍系」、健康診断表の作成・管理や保健室来室管理等を行う「保健系」の機能を有しており、児童生徒情報の共有化と多様な校務処理の効率化が可能で、幅広い業務で活用している。

今後は、児童生徒の成績や保健関係など様々な情報がシステムに蓄積されていくことから、これらの教育データを活用し児童生徒それぞれに応じた支援や指導の充実に取り組む。また、これまでの業務などを精査することで、不必要な入力作業の削減をめざす。